

環境調査結果のお知らせ

令和4年7月4日午前9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しましたので、結果をお知らせします。

湾内の環境は水温が23.3～28.8℃、塩分が25.2～32.8、溶存酸素量が0.1～11.5mg/Lでした。また、透明度は0.7～4.5mでした。水試小割前以外の定点において、大鹿では底層が、その他の定点では10m層と底層が貧酸素状態になっていました。

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で2,520 cells/mL、カレニア・ミキモトイが最高で16 cells/mL確認されました。

シャットネラ属は水試小割前を除く定点において、漁業被害が想定される細胞密度に達していますので、十分注意してください。

海や養殖魚の状態に応じて、餌止めなどの慎重な養殖管理をお願いします。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

表1 水温(℃)

調査地点	中学校前	目ノクソ	光松	大鹿	水試小割前	漁場平均※	前回調査(6/22)	
							漁場平均※	前回との差 今回-前回
0m	28.2	28.7	27.3	27.9	26.8	27.9	26.3	1.6
2m	27.7	28.8	27.9	27.9	27.1	28.2	25.0	3.2
5m	25.6	26.0	26.2	26.2	26.1	26.1	23.9	2.2
10m	24.7	25.0	25.2	25.3	—	25.2	23.2	2.0
B-1m	24.5	23.5	23.4	23.3	25.7	23.4	22.6	0.8

表2 塩分

調査地点	中学校前	目ノクソ	光松	大鹿	水試小割前	漁場平均※	前回調査(6/22)	
							漁場平均※	前回との差 今回-前回
0m	26.8	27.9	25.2	27.4	28.7	26.8	29.1	▲ 2.3
2m	32.0	31.5	31.8	31.8	31.6	31.7	31.8	▲ 0.1
5m	32.3	32.4	32.4	32.5	32.5	32.4	32.5	▲ 0.1
10m	32.5	32.6	32.6	32.6	—	32.6	32.8	▲ 0.2
B-1m	32.6	32.8	32.8	32.8	32.7	32.8	32.9	▲ 0.1

表3 溶存酸素量(mg/L)

調査地点	中学校前	目ノクソ	光松	大鹿	水試小割前	漁場平均※	前回調査(6/22)	
							漁場平均※	前回との差 今回-前回
0m	10.1	8.4	7.7	8.0	6.9	8.0	11.5	▲ 3.5
2m	11.5	10.1	9.1	8.7	6.7	9.3	11.3	▲ 2.0
5m	5.0	4.9	5.2	5.6	5.5	5.2	6.8	▲ 1.6
10m	0.9	1.9	3.1	3.6	—	2.9	2.9	0.0
B-1m	0.2	0.1	0.1	0.1	4.5	0.1	0.5	▲ 0.4

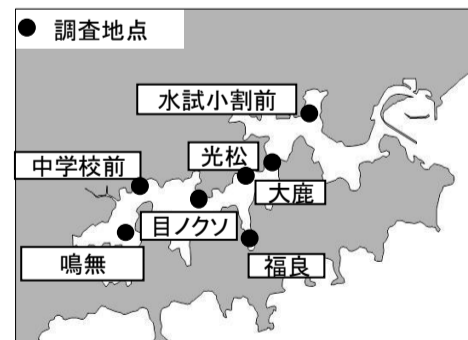
※ 目ノクソ・光松・大鹿の平均値

表4 水深・透明度(m)

調査地点	中学校前	目ノクソ	光松	大鹿	水試小割前
水深	19.7	16.2	17.7	17.3	9.7
透明度	0.7	1.6	4.5	4.0	4.2
前回(6/22)	2.8	2.5	2.1	2.6	3.4

表5 プランクトン(cells/mL)

調査地点	水深	プランクトン		
		カレニア・ミキモトイ	シャットネラ属	珪藻類
中学校前	0m	0	18	360
	2m	2	660	200
	5m	1	19	100
	10m	0	11	40
	12m	0	21	20
目ノクソ	0m	0	0	100
	2m	0	36	20
	5m	0	112	100
	10m	0	0	80
	15m	0	0	40
光松	0m	0	0	40
	2m	0	20	200
	5m	0	4	260
	10m	0	0	240
	16m	0	1	10
大鹿	0m	0	1	60
	2m	0	10	40
	5m	0	2	260
	10m	0	0	220
	16m	0	0	4
水試小割前	0m	0	0	100
	2m	0	2	500
	5m	0	0	600
	8m	0	0	40
鳴無	1m	8	2,520	—
	5m	7	0	—
福良	1m	16	920	—
	5m	0	2	—



漁業被害が想定される細胞密度

- ・カレニア・ミキモトイ:
数百 cells/mL以上(魚類等のへい死)
- ・シャットネラ属:
10 cells/mL以上(魚類のへい死)